

小 学 校

平成 2 7 年度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	4
IV	研究の方法	4
V	研究の内容	
1	研究構想図	5
2	教員の意識調査	5
3	低学年分科会（第2学年）の検証授業	7
	中学年分科会（第4学年）の検証授業	13
	高学年分科会（第6学年）の検証授業	19
VI	研究の成果と課題	24

文章を解釈し、自分の考えを表現する指導法の工夫 ～文学的な文章を読むことを通して～

I 研究主題設定の理由

本研究は、国語科の「読むこと」の指導において、「自分の考えを表現する」ことに重点を置き課題解決的な活動を位置付けることで思考力・判断力・表現力等を高め、身に付けた力を実生活に生かすことができる児童の育成を目指すものである。

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（中央教育審議会文部科学大臣諮問 平成26年11月）では、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があると述べられている。そこで、本研究は「アクティブ・ラーニング」を「ある事柄を知っているのみならず、実社会や実生活の中で知識・技能を活用しながら、自ら課題を発見し、主体的・協働的に探究し、成果等を表現していけるよう学びの質や深まりを重視した学習のこと」と捉え、国語科における具体的な取組として、「読むこと」の指導における課題解決的な活動を位置付けた授業づくりに焦点を当てて研究を進めることとした。

「平成26年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会）の読み解く力の調査の結果では、「必要な情報を正確に取り出す力」の正答率は86.1%に対し、「比較・関連付けて読み取る力」の正答率は31.3%、「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の正答率は41.5%であった。読み解く力の調査は、課題解決の過程において児童がどの段階でどのような学習のつまずきがあるのかを見るものであり、「比較・関連付けて読み取る力」や「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の段階の指導に課題が見られることが分かった。また、「平成26年度 全国学力・学習状況調査」（文部科学省）の小学校国語の東京都の結果では、国語B「読むこと」の「二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くことができるかどうか」を問う問題の正答率は48.3%となっており、内容や表現の仕方等に注目した上で条件に合わせて自分の考えを書くことに課題があることが分かった。

これらの結果は、本部会の教員が日頃の指導の中で感じている児童の課題とも一致している。文章を読んで内容を理解することはできるが、読んだことを基に自分の考えを的確に表現することができず、本文の引用を多用して感想や意見としてしまうとといった児童の姿である。本研究は、まさにこうした児童に、しっかりと文章を解釈し、自分の考えを表現できる力を身に付けさせていくことを目的としたものである。

さらに、研究を進めるに当たっては文学的な文章を取り上げることとした。「平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査」（国立教育政策研究所）の教科別分析と改善点の質問紙調査では、好きな物語やシリーズの本がある児童ほど、「読むこと」の通過率が高い傾向があることが示されている。

このような理由から、文学的な文章を読むことにおいて、課題解決的な活動を取り入れ、文章を解釈したことを基に自分の考えを表現する段階の指導を工夫することに焦点を絞り、研究を進めることにした。

II 研究の視点

本研究は以下の視点をもって取り組む。

【視点1】課題解決的な活動の工夫

(1) 課題解決的な活動の設定

本研究では、課題を設定する際、教材文の中で児童の心に響いたところを基にして課題を設定し、その課題を解決するという目的を明確にすることで、児童が意欲的に取り組めるようにした。また、解決するにふさわしい課題であるかどうかを十分に吟味することを大切にした。さらに、児童が課題の解決のためにどのような活動を積み重ねていけばよいのかを考える過程で、学習のまとめ方を具体的にイメージできるように、教師がモデルを提示することとした。検証授業では、低学年は「心に残ったお話の紹介カード」、中学年は「お話タワー」、高学年は「生き方ブック」を提示し、児童の発想を生かしながら活動できるものとした。

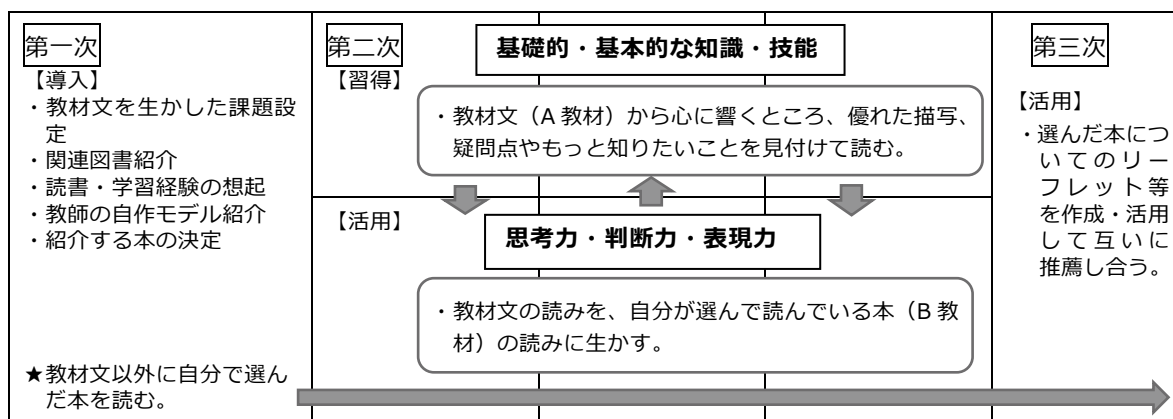
(2) 指導過程の工夫

本研究では、各教科等での言語活動を支える能力につながる国語科における基礎的・基本的な知識・技能を習得するための言語活動と、習得した知識・技能を活用して課題を解決することで思考力・判断力・表現力等の育成につながる言語活動とに分けて考えた。

また、文学的な文章を読むことの指導に課題解決的な学習過程を取り入れ、課題の解決の段階で「読む」、「話し合う」、「書いてまとめる」などの言語活動を工夫することで、児童の「目的に応じて文章を解釈し、自分の考えを表現する力」を高めたいと考えた。

そこで、教材文で身に付けた力を活用して、自分の選んだ本を読むという学習過程にすることで、身に付けさせたい力を定着させるとともに、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。そのために、第二次では、教材文の学習と児童が自分で選んだ本を交互に読むことができるよう工夫し、習得した力を活用するという指導過程を計画した。

《指導過程の工夫の例》



【視点2】文章を解釈し、自分の考えを表現する指導の工夫

『小学校学習指導要領解説国語編』には、文章の解釈とは、「今までの読書経験や体験等を踏まえ、内容や表現を、想像、分析、比較、対照、推論などによって相互に関連付けて読んでいく。」と記されている。

本研究では、「文章を解釈する」ことを、文章の内容を的確に理解し、書き手の意図を推論し、他の資料や自己の体験等を相互に関連付けて読んでいくことと捉えた。また、児童が「自分の考えを表現する」ことができるようにするためには、文章を的確に解釈させる必要があると考え、研究を進めた。

(1) 文章を解釈するための学習活動の工夫

文章を解釈するためには、目的に応じて何を読み取る必要があるのかを児童に明確に意識させる必要がある。指導においては、各学年の系統性を意識して、必要に応じて詳しく読み取る指導を行う。

《文学的な文章の解釈に関する指導事項》

低学年	場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
中学年	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。
高学年	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

作品全体を見通して文章の内容や構造を理解したり、特徴を把握したりすることができるよう、教材文の全文を掲示した。そして、叙述に付箋やサイドラインを引くことで、自分の考えの根拠を明確にし、文章を的確に解釈できるようにした。また、全文の掲示をすることにより、学級全体で学習したことを共有できるようにした。

(2) 自分の考えを表現する学習活動の工夫

自分の考えをいつでも確認できるように、文章を解釈したことや自分の考えをリーフレットなどに整理してまとめるようにした。また、整理したことについて、他者と交流することで、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにした。

《文章を解釈し、自分の考えを表現するための工夫》

	文章を解釈するための工夫	自分の考えを表現するための工夫
共通項目	<ul style="list-style-type: none"> 全文を通した読み（全文の掲示） 課題解決的な活動の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 解釈したことを基にして自分の考えを表現する学習活動の設定 交流（話型・表現語彙の提示）
低学年	<ul style="list-style-type: none"> 児童の感想による課題設定 毎時間の音読 	<ul style="list-style-type: none"> 心に残ったお話をまとめた「しょうかいカード」を作成して交流を行った。 自分の表現の参考にするための「いただきます交流」を行った。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 中心人物の心情変化の読み取り 教材文の全文を写したシート 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情の変化をまとめた「お話タワー」を作成して交流を行った。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を1枚にまとめたワークシート 自分と他者の考えを確かめるための交流 	<ul style="list-style-type: none"> 解釈したことを基に自分の考えをまとめた「文集」を書いて交流を行った。 自分の考えを豊かに表現させるための「表現語彙」を示した。

【視点3】評価の工夫

(1) 具体的な評価規準の設定

児童に身に付けさせたい文章を解釈する力の評価規準を明確に設定し、評価を行う。さらに、解釈したことを基に表現する力を具体化した評価規準を設ける。

《文章を解釈して読むことと自分の考えを表現することについて》

	解釈して読むこと	表現すること
低学年	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動、時間や事柄の順序を理解する。 想像を広げながら読む。 	文章の内容と自分の経験（読書経験、生活経験など）とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめて表現する。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む。 	一人一人の感じ方について違いがあること（共通点・相違点）に気付き、文章を読んで考えたことを表現する。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の相互関係や心情や場面の様子を捉える。 象徴性や暗示性を読む。 メッセージや題材を強く意識させる表現に気付く。 	本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

(2) 指導と評価の一体化

発達段階に応じて、第三次の学習（習得したことを活用する段階）を第二次に取り入れ、教材文（A教材）を読む学習と他の資料（B教材）を読む学習を繰り返し位置付け、より細かく評価を行う。繰り返し評価を行う中で、課題の見られる児童にはつまずきに応じた支援を行い、身に付けさせたい力を確実に定着させる。

座席表型評価簿に、文章を解釈して表現する力を具体化した評価規準を記し、前時の評価を基に本時の支援計画を立てることで指導と評価の一体化を図った。

III 研究の仮説

文章を解釈したり自分の考えを表現したりする力の系統性を明確にし、課題解決的な活動を充実させれば、解釈したことを基に自分の考えを表現する力が育つであろう。

IV 研究の方法

1 基礎研究

「平成 26 年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査」や「平成 26 年度 全国学力・学習状況調査」、「平成 24 年度 小学校学習指導要領実施状況調査」等の結果を参考にして、東京都の児童の文章を解釈する力や自分の考えを表現する力等を分析する。

2 調査研究

教員に対して、「文章を解釈し、自分の考えを表現する指導」についての意識調査を行い、その分析から「文章を解釈し、自分の考えを表現する指導に関する意識、現状、課題」についての実態を把握する。

3 授業検討・検証授業

教育研究員の月例会や、低・中・高学年分科会において、研究主題に迫るための授業を展開して仮説を検証する。

V 研究の内容

1 研究構想図



2 教員の意識調査

文学的な文章の指導における「文章を解釈し、自分の考えを表現する指導方法」の改善に資するために、実際にその指導がどのように行われているのかを調査した。

[平成27年度教育研究員(小学校国語)の所属校15校の教員209人に実施:実施期間 平成27年11月]

(1) 文学的な文章を読む指導の実際

質問①-(1) 文学的な文章を読むことの指導でどのようなことを特に意識しているか。

設問	(複数選択可)	選択者数	選択した割合
初発の感想を生かして課題と計画を立てる。		112人	53.6%
場面ごとに、叙述を基に登場人物の心情を読む。		147人	70.3%
場面ごとに区切らず、叙述を基に登場人物の心情を読む。 (文章全体を課題解決の過程で読む。)		60人	28.7%
その他(「読んだことを基に登場人物に手紙を書く」等)		14人	6.7%

質問①-(2) 文学的な文章を読むことの指導の際、難しいと感じることや特に留意していることがあれば記入してください。

【難しさ】

- ・登場人物の気持ちを考えることが中心になってしまう。
- ・初発の感想や疑問を基に学習課題を設定することが難しい。

【留意点】

- ・文章を根拠に、登場人物の心情を考えさせるようにしている。

(一部抜粋)

文学的な文章を読むことの指導で、場面ごとに叙述を基に登場人物の心情を読むことを意識している教員の割合が 70.3%に対し、場面ごとに区切らず、課題解決の過程で読むことを意識している教員の割合は 28.7%であった。また質問①－(2)から、文学的な文章を読むことの指導において、課題解決的な学習過程を設定することに難しさを感じている状況が見られた。

(2) 文学的な文章を読み、自分の考えを表現する指導の実際

質問② 文学的な文章を読み、自分の考えを表現する指導をどのように取り組んでいますか。

設問	(複数選択可)	選択者数	選択した割合
場面ごとに感想を書いて、それを基に自分の感想や考えを表現させる。		44 人	21.1%
大事な言葉や文などを書き抜いて、それを基に自分の感想や考えを表現させる。		98 人	46.9%
作中の出来事と自分の経験とを比べて思ったことや考えたことを基に自分の感想や考えを表現させる。		84 人	40.2%
他の作品も読んで、比べて気付いたことや分かったことを基に自分の感想や考えを表現させる。		33 人	15.8%
登場人物の言動(考え方や生き方も含む)を基に自分の感想や考えを表現させる。		139 人	66.5%
作品の好きなどころ、おもしろいところ、心に残ったところ(作者の意図や、伝えようとしていることが込められているところ)などに着目して、それを基に自分の感想や考えを表現させる。		137 人	65.6%
その他		6 人	2.9%

質問③ 文学的な文章を読み、自分の考えを表現する指導の際、難しいと感じることや特に留意していることがあれば記入してください。

- ・個人差が大きく、書くことが苦手な児童への指導は難しい。
- ・自分の考えを書くことが苦手で、書けたとしても「おもしろかった」「楽しい文章だった」といった乏しい表現にとどまる。

(一部抜粋)

主に教科書教材を使って文学的な文章を解釈することや自分の考えの形成に関することを指導していることが分かる。しかし、そこで習得したことを使って、他の作品に触れさせて活用するといった指導が少ないという状況が見られた。

(3) 文学的な文章を読むことの評価の実際

質問④ 文学的な文章を読むことの評価をどのようにしていることが多いですか。(複数選択可)

設問	(複数選択可)	選択者数	選択した割合
領域・観点別に作成されたテストで評価を行っている(業者テストも含む)。		162 人	77.6%
具体的な評価規準を設定して、ノートやワークシートに記入されていることを基に評価を行っている。		159 人	76.1%
めあてに沿った振り返りを記入させて、それを基に評価を行っている。		52 人	24.9%
座席表型評価簿を使って、評価を行っている。		21 人	10.1%
その他		5 人	2.4%

評価は、テストやノート、ワークシート、に記入された内容を基に行っている教員の割合が、それぞれ 77.6%、76.1%と高い。振り返りや座席表型評価簿による評価の方法については、それぞれ 24.9%、10.1%と活用頻度が低いことが伺える。このことから、評価のための準備よりも板書計画やワークシートの作成といった、指導のための準備に時間を費やすことの方が多いた方が多いことがうかがえる。

低学年分科会（第2学年）の検証授業

- 1 単元名 心にのこったお話をしようかいしよう
教材名 「スーホの白い馬」 おおつか ゆうぞう （第2学年）

2 単元の目標

- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。
- ◎物語から心に残った言葉や文を書き抜き、自分の経験と結び付けて、思いや考えをまとめることができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・想像を広げて読むことの楽しさに気付き、物語を読もうとしている。	・登場人物の行動を中心に、場面の様子を想像しながら読んでいる。(ウ) ・物語を読んで心に残った言葉や文を書き抜いている。(エ) ・文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合っている。(オ)	・複合語の語感の違いに気付いている。 [イ(ウ)]

4 教材の特性

「スーホの白い馬」は長文だが、叙述を基に想像を広げて読んだり、自分の好きな場面を選んだりすることができる教材である。また、人物同士の関係性の中で心情を理解しながら読むことができる教材でもある。このことから、中学年の「C読むこと」の指導事項ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」や高学年の指導事項エ「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」の基礎となる力を身に付けさせることに適した教材であると考えられる。

さらに、この物語はモンゴル民族に古くから伝わる話が基になっているので、児童がこれまで出合ったことのない物語に触れるきっかけとなり、今後の日常的な読書につなげることができる。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 課題解決的な活動の工夫

ア 課題解決的な活動の設定

課題解決的な活動として、「C読むこと」の言語活動例「オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。」を具体化したお話を紹介する活動を位置付ける。「お話をしようかいしよう」では、「物語のあらすじ」「心に残った場面とその理由」「気に入った叙述」「登場人物の人柄」についてまとめた「しようかいカード」で交流する。これらの言語活動が

ら、自分の経験と結び付けて読んだことを基に、自分の思いや考えをまとめる力が身に付くと考える。

【「お話ししようかいカード」の例（一部抜粋）】

本文や挿絵から想像を広げながら読み取ったことを吹き出しに表現している。

お話の場面を選んだ理由について、叙述を基に表現している。場面についての自分の考えを、経験と結び付けて表現している。



⑥ この場めんを えらんだ りゆう

モンゴルの女の人們が、力を合わせて、ひるまずにわるいカラスとたたかい、すごいと思ったのでえらびました。わたしは、学校のうんどう会でみんなが力を合わせるこの大切さを学びました。これからも友達とがんばっていきたいです。

イ 指導過程の工夫

第一次では、自分が選んだ本の読みにつなげるブックトークとして、いろいろな国の昔話やその土地に伝わるお話を紹介し、児童に興味・関心をもたせる。また、教師が作成した「しようかいカード」を提示し、学習の目的や見通しをもたせるようにする。なお、第1時と第2時の間に、児童が本を読んで選ぶ時間を確保できるようにする。課題設定の工夫として、教材文を読み、心に残った言葉や文について感想を書かせ、交流させることで、単元を通して読む目的を明確にしておく。更に、物語のイメージを広げることができるよう児童の感想や疑問が出ると予想される馬頭琴の音色、モンゴルの風景や生活の様子が分かるような資料を必要に応じて提示する。

第二次では、児童が主体的に読み進めることができるように、第一次の感想の交流で出た「特に心に残った言葉や文」を取り上げて交流を行う。この交流では、自分自身で読み取った内容をペアで交流することによって、考えを広げ、深めることができる。また、教材文と自分が紹介したい本を交互に読み進めていくことで、教材文で学んだ読み方を、すぐに自分が選んだ本の読みを活用することができると思う。さらに、自分の経験と結び付けて読んだことを基に、心に残った言葉や文とその理由、本や文章を読んで感じたことや思ったこと、考えたこと等を「しようかいカード」にまとめる。その過程に自分の考えを表現できるように交流する場を設ける。

第三次では、同年代の友達に紹介する場を設定する。そして日常の読書につなげるために、すぐに本を手にとることができる環境を作る。学習後には、教室に「しようかいカード」と本を展示して、更に日常の読書につなげていく。

(2) 文章を解釈し、自分の考えを表現する指導の工夫

ア 文章を解釈する学習活動の工夫

低学年の文学的な文章の解釈に関する指導事項は、「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」である。これを踏まえて以下の手だてを考えた。

- ・ **物語の世界観を広げる**

楽器や音楽に触れさせたり、写真を提示したりすることで物語の世界観を身近に感じ、想像力を広げることができるようにする。

- ・ **サイドラインと吹き出し**

解釈して読むために、自分の考えの根拠となる叙述にサイドラインを引かせたり、登場人物の気持ちを想像して吹き出しに書かせたりする。

- ・ **毎時間の音読**

低学年で有効な音読を取り入れる。音読には、自分が理解しているかどうかを確かめたり深めたりする働きと、他の児童が理解するのを助ける働きとがある。本単元では、自分の解釈のために音読する。毎時間音読をすることで、児童が文字を確かめ、内容が理解できるかや、どのように感じるかなどについて、自分の声を自分で聞きながら把握する。

- ・ **全文の掲示と挿絵の活用**

お話の流れを押さえたり、友達の考えを知ったりすることができるように全文を掲示する。また、時間や事柄の順序を捉えるために挿絵を活用する。

イ 自分の考えを表現する学習活動の工夫

児童が心に残ったお話の場面に対する自分の考えを進んで表現できるように、以下の手だてを工夫する。

- ・ **「しょうかいカード」での表現**

児童に活動のイメージをもたせるために、教師が用意した「しょうかいカード」のモデルを提示する。その際、単元の最初に提示するのではなく、児童が課題や単元の見通しをもったタイミングで提示する。児童が読み取ったことを表現できるように、A教材（共通教材）とB教材（児童が自分で選んだ本）で共通のワークシートを使用する。児童がまとめた「しょうかいカード」を教室に展示して全体に紹介し、更に日常の読書につなげることができるようにする。

- ・ **付箋の活用**

自分の考えを表現するために、教科書では根拠となる叙述にサイドラインを引かせ、自分が選んだ本には付箋を貼る。

- ・ **交流の場の設定**（「いただきます交流」）

読むことや自分の表現の参考にするために、交流を取り入れる。これを「いただきます交流」とし、友達の考えのよさに気付くことができるようにする。解釈のための交流は話しやすいようにペアで行い、しょうかいカードの交流は2～3人のグループで行う。

- ・ **文型の提示**

教師のモデルや児童の優れた文章を意図的に紹介し、「しょうかいカード」の書き方の要

素を見付けることができるようにする。手だてが必要な児童には文型を提示して、どの児童も自分の考えが表現できるようにする。

(3) 評価の工夫

ア 具体的な評価規準の設定

文章を解釈して読み、表現することに関して、6年間の系統性を踏まえて児童に身に付けさせたい力を明らかにする。それを基に、本単元で身に付けさせたい力を具体化した評価規準を作成し、学習状況を確認していく。その際、発表、学習中の様子、「しょうかいカード」、振り返りカードに書かれた内容など、様々な視点から児童の変容を教師が把握していく。

イ 指導と評価の一体化

毎時間の学習状況を把握し、具体的な支援について記した座席表型評価簿を用意して、1単位時間の中で行う評価と支援の手だてとする。課題の見られる児童には、つまずきに応じた支援をあらかじめ用意して、身に付けさせたい力を確実に定着させる。

児童の振り返りカードには、本時の読みのめあてに沿った感想を書かせる。教師が肯定的な評価コメントを書いたり全体の場で児童に紹介したりすることで、毎時間の意欲につながられるようにする。

6 学習指導計画（10時間扱い）

※A教材（教科書教材）とB教材（児童が自分で選んだ読み物）を扱う。太線内はB教材での学習。

次	時	学習活動	手だて	評価規準 (評価方法)
一	1	○ブックトークを聞いたり、 教師作成のカードを見たり して、学習の見通しをもつ。	○世界の民話や動物が出てくる お話などの本を紹介する。	
	心にのこったお話をしょうかいしよう！			
	2	○「スーホの白い馬」を読み、 初発の感想を書く。 ○複合語について知る。	○「心に残った言葉や文」「疑問」 「共感した出来事」の三つの観 点で初発の感想を書かせる。	[言イ(ウ)]複合語 について理解して いる。(ノート)
3	○感想を基に交流し、読みの 課題を設定する。 ○世界の民話や動物が出てく るお話を読み、紹介する本 を決める。	○教師が作成した「しょうかいカ ード」を提示して、学習の見通 しをもたせる。	[関]書かれた文章 を、興味をもって読 もうとしている。 (ワークシート)	

二	4	<p>○主な登場人物の性格や行動が分かる言葉や文を見付け、記号を付ける。</p> <p>○人物の性格とその理由についてペアで交流する。</p> <p>○全体で登場人物について確認する。</p> <p>○登場人物紹介を書く。</p> <p>○自分が選んだ本を読み、登場人物の性格について「しょうかいカード」に書く。</p>	<p>○人物名を記号化することで、捉えやすくする。</p> <p>スーホ → ⊙</p> <p>白馬 → ⊕</p> <p>とのさま → ⊗</p> <p>○根拠となる叙述に着目させるために交流することを伝える。</p> <p>○教材文の学習時に使用したものと同じ形式の学習カードを用意し、登場人物の性格や行動が分かるところに青い付箋を貼らせる。</p>	<p>[読ウ]登場人物を捉え、性格や行動を読み取っている。</p> <p>(ワークシート)</p>
	5	<p>○挿絵や叙述を基に、人物の行動からお話の大体を読み取る。</p> <p>○お話の大体を1～2文でまとめる。</p> <p>○自分が選んだ本を読み、お話の大体を「しょうかいカード」に書く。</p>	<p>○挿絵や叙述を基に、人物がしたことや出来事を中心に読ませる。</p> <p>○文末を「～というお話」で、まとめさせる。</p> <p>○書く内容を示す。</p> <p>・「誰が」「何をきっかけに」「どうなった」「どんな話」等</p> <p>○教材文で学習したことを基に、学習カードにまとめさせる。</p>	<p>[読ウ]挿絵や叙述を基に、物語の大体を読んでいる。</p> <p>(ワークシート)</p>
	6	<p>○教材文を読み、心に残った言葉や文に赤でサイドラインを引く。</p> <p>○自分がサイドラインを引いたところと感じたことについて、ペアで交流する。</p> <p>○一番心に残っている文を選び、教科書と全文掲示に印を付ける。</p> <p>○自分が選んだ本を読み、心に残った文を「しょうかいカード」に書く。</p>	<p>○自分の感じたことを明確にするために、サイドラインを引くように促す。</p> <p>○友達の考えを知り、自分の考えを明確にするために交流することを伝える。</p> <p>○交流を通して、一番心に残った文を決め、印を付けさせる。</p> <p>○教材文の学習時に使用したものと同じ形式の学習カードを用意し、自分の選んだ文に付箋を貼らせる。</p>	<p>[読エ]一番心に残った言葉や文を紹介カードに書き抜いている。(ワークシート)</p>

	7	<p>○登場人物の気持ちを想像して、吹き出しを書く。</p> <p>○同じ場面を選んだ友達と交流し合う。</p> <p>○吹き出しを増やしたり、書き加えたりする。</p> <p>○自分が選んだ本を読み、「しょうかいカード」に吹き出しを書く。</p>	<p>○登場人物の気持ちを想像しやすくするために、吹き出しを書かせる。</p> <p>○叙述に基付いて気持ちを吹き出しに書くように声を掛ける。</p> <p>○自分の考えに自信をもったり、友達の意見を取り入れたりすることができるように、交流をさせる。</p> <p>○書き方が分からない児童は、交流をするよう声を掛ける。</p>	<p>[読オ]読んだことを基に、登場人物の気持ちを想像して吹き出しを書いている。</p> <p>(ワークシート)</p>
	8	<p>○自分が選んだ場面について、理由を入れてまとめる。</p> <p>○友達と交流する。</p>	<p>○理由の書き方を提示する。</p> <p>・～から、～ので(語尾)</p> <p>○文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめさせる。</p> <p>○書いた内容が伝わるかどうか、ペアで読み合わせる。</p>	<p>[読オ]物語を読んで自分が選んだ場面について、思いや考えをまとめている。</p> <p>(ワークシート)</p>
	9	<p>○自分が選んだ場面について、理由を入れて「しょうかいカード」にまとめる。</p> <p>○友達と交流する。</p>	<p>○文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめさせる。</p> <p>○交流をさせる。</p> <p>○叙述を基に考えさせる。</p> <p>○教材文で学習したことを生かして、学習シートに自分の思いをまとめるように声を掛ける。</p>	<p>[読オ]物語を読んで自分が選んだ場面について、思いや考えをまとめている。</p> <p>(ワークシート)</p>
三	10	<p>○クラスの友達に、心に残ったお話を紹介し、感想を交流する。</p>	<p>○紹介する相手と本を読みたい気持ちを共有できるように、ペアで話す場を設定する。</p>	<p>[関]想像を広げて読むことの楽しさに気づき、物語を読もうとする。</p> <p>(ワークシート)</p>

中学年分科会（第4学年）の検証授業

- 1 単元名 登場人物の気持ちの変化を「お話タワー」で表現しよう
教材名 「ごんぎつね」 新美 南吉 （第4学年）

2 単元の目標

- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、
叙述を基に想像して読むことができる。
- ◎物語を読んで登場人物に対する自分の思いや考えをまとめて交流し、友達との感じ方の違いに気付くことができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・叙述に着目して読み、感じたことや考えたことを進んで話し合おうとしている。	・会話や心情表現、行動に着目し、人物の気持ちを考えている。(ウ) ・物語を読んで考えたことを交流し、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いている。(オ)	・言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 [イ (ア)]

4 教材の特性

「ごんぎつね」は、「1」から「6」の場面で構成されている。「1」から「5」までは主人公「ごん」の視点で書かれており、「ごん」の心情やその変化が捉えやすく、場面の展開に沿って人物の性格や心情の変化を想像しながら読む力を育てるのにふさわしい教材である。「6」においては、視点が「ごん」から「兵十」に転換しているために、「ごん」の思いは描かれていない。そこで、対人物である「兵十」の心情の移り変わりから「ごん」の気持ちを考えさせることができる。「兵十」の「ごん、お前だったのか、いつもくりをくれたのは。」という言葉に対して、「ごん」の「ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。」という行動が描かれている。児童にその描写に込められた「ごん」の心情を考えさせることで、自分の思考や感情、経験を重ね合わせ、物語全体の「ごん」の気持ちの変化から導き出された多様な読みが生まれると考える。

また、情景を表す語句にも着目させることにより、叙述を基に想像豊かに味わわせることもできる教材である。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 課題解決的な活動の工夫

ア 課題解決的な活動の設定

課題解決的な活動として、「登場人物の気持ちの変化を『お話タワー』で表現しよう」を位置付けた。中心人物の行動や会話から、登場人物の性格や気持ちの変化を読み取り、その中心人物に対する自分の思いや考えを「お話タワー」にまとめ、友達と伝え合う活動で

ある。四角柱の「お話タワー」の側面に「題名、作者名、中心人物の性格」と「気持ちの変化」を表現した後、物語全体を通しての「中心人物に対する自分の考え」をまとめる。中心人物の気持ちの変化については、「変化する前の気持ち」、「変化のきっかけ」、「変化した後の気持ち」を表現する。

このような活動を設定することで、物語全体を通して中心人物に対する自分の考えをまとめて伝えるという課題をもち、中心人物の気持ちの変化やそのきっかけを捉えながら読むという読みの視点を明確にして主体的に学習ができると考える。

【「お話タワー」の例（一部抜粋）】

はじめのごんの気持ち①

雨が上がり、やうと
たぞ。
今日は空が
からっと晴れ
ていて気持ち
いいな。
人間にいたず
らでもしよ
うかな。

雨が上がり、ほっとしてあ
なからはい出ました。
空はからっと晴れていて、
もずの音がきんきんひび
いていました。
ちよいと、いたずらがしたく
なりました。

変化するきっかけ②

おつかあ、死
かるといって
うなづのいたずら
をしたことを
後悔し、
心から反省した。

いつまでもつぐないを続けるごん

終わりのごんの気持ち③

兵十、
ごめんよ。
今でまるごと
をせいっぱい
やろう。
ぐりをたたく
ん食だて
元気になる
ね。

ごんは、こへえ、こいつはつま
らないなれと思いました。
神様にお礼を言うん
じゃあ、おれはひきあわな
いなめ。その明るく目も、
ごんはぐりを持って、兵十
のうちへ出かけました。

中心人物の気持ちに変化が起きたきっかけを、短い言葉でまとめる。

どんな様子のごんなのか、小見出しをつける。ふき出しには、叙述を基に想像した中心人物の気持ちを表現し、下段には、中心人物の気持ちが分かる叙述を書き抜く。

イ 指導過程の工夫

第一次では、学習課題をつかませる。登場人物の性格や気持ちの変化等、心に残る叙述について、物語全体を捉えることができる全文の掲示に付箋を貼り、考えを交流する。交流する中で、ごんの気持ちの変化を読み取るという課題意識を明確にさせ、「ごんぎつね」を読み深めていこうとする意欲をもたせる。また、教師が作成した「お話タワー」を紹介し、学習への興味関心と学習の見通しをもたせ、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。さらに、A教材（教科書教材）で習得したことを、B教材（児童が自分で選んだ読み物）の読みに活用するという学習計画を確認する。

第二次では、登場人物の行動、心内語、情景等の叙述を基に、ごんの気持ちを想像して読ませる。「ごんがかわいそうだ。」「どうしてごんは、兵十に気付かれないように償いをしたのか。」「ごんが撃たれたことで変わったことは何か。」など、読者としての解釈を深めさせる。また、交流の場を生かして友達の考え方との共通点や相違点に気付かせたり、「お話タワー」にまとめたことを基に中心人物に対する自分の思いや考えを整理したりして、自分の思いや考えをまとめられるようにする。

第三次では、B教材での中心人物に対する自分の思いや考えについて、友達に伝える場を設定する。同じ作品を読んだ友達との交流や、違う本を読んだ友達との交流を通して、他者との感じ方の共通点や相違点に気付けるようにする。また、他の本でも中心人物の気持ちの変化に着目して読みたいという、読書への意欲の向上につなげていく。

(2) 文章を解釈し、自分の考えを表現する指導の工夫

ア 文章を解釈する学習活動の工夫

中学年の文学的な文章の解釈に関する指導事項は、「物語の場面の移り変わりに注意しながら、叙述を基に登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて想像して読むこと。」である。これを踏まえ、以下の手だてを考えた。

- ・ **全文の掲示・全文を一枚に示したワークシートの活用**

文学的な文章の解釈ができるように、単元を通して中心となる登場人物の心情の変化を読むという課題をもたせる。場面ごとの読みではなく物語全体を広く扱い、言葉と言葉、場面と場面等を関係付けて考えられるようにする。そのために、教材文の全文を掲示し、学習したことを書き込み、叙述を生かせるようにする。児童一人一人の手元に全文を一枚に示したワークシートを準備し、毎時間活用していく。

- ・ **付箋・サイドラインの活用**

第一次で心に残る叙述を選び、全文の掲示に付箋を貼らせる。行動、会話、情景描写など色分けをして貼らせ、全員の考えを視覚的に捉えさせる。そこから、読みの課題を設定していく。

全文を一枚に示したワークシートに読みの課題に対する根拠となる文にサイドラインを引かせる。ごんの気持ちが分かる叙述にサイドラインを引くことで、気持ちの変化を明確に捉えられるようにする。

- ・ **B教材の精選**

『ごんぎつね』と似た時代背景や世界観の齊藤隆介作品と『ごんぎつね』の作者である新美南吉作品の中から、登場人物の気持ちの変化を解釈しやすい作品として、『花さき山』、『かみなりむすめ』、『ソメコとオニ』、『猫山』、『半日村』、『花のき村と盗人たち』、『坊さんの足、百姓の足』の7作品を選定した。

イ 自分の考えを表現する学習活動の工夫

登場人物の気持ちの変化と登場人物に対する自分の考えを表現できるように、以下の手だてを工夫した。

- ・ **「お話タワー」での表現**

「お話タワー」とは、中心人物の一番大きな気持ちの変化について、複数の叙述を基に捉えたことを視覚的に分かりやすくまとめたものである。この「お話タワー」には、中心人物の「変化する前の気持ち」、「変化したきっかけ」、「変化した後の気持ち」について、根拠となる叙述とその叙述を基に想像した気持ちをまとめる。それらを基に中心人物に対する自分の考えを表現させる。

- ・ **グループ交流**

「お話タワー」をまとめる過程でグループ交流をすることで、それぞれの解釈の共通点や相違点に気付かせる。友達の解釈を知ることによって自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。

- ・ **モデルや文型の提示**

教師の作成したモデルや児童の優れた文章を意図的に紹介し、「お話タワー」での表現の参考にさせる。手だてが必要な児童には文型を提示して、どの児童も自分の考えが表現できるようにする。

(3) 評価の工夫

ア 具体的な評価規準の設定

「登場人物の気持ちの変化を『お話タワー』で表現しよう」という単元の目標に準拠した評価規準を設定する。それを基に、児童に身に付けさせたい力を明確にして、一時間ごとの具体的な評価規準と支援を設定する。「お話タワー」には、登場人物について叙述を基に書いているか、登場人物の気持ちの変化やそのきっかけを正確に読んでいるか、登場人物に対する自分の考えを書けているかなどの評価規準を設定した。

また、座席表型評価簿を活用し、学習の様子やノート、「お話タワー」に書いた内容から児童の学習状況を把握していく。

イ 指導と評価の一体化

指導と具体的な評価規準に照らし合わせて児童の学習を毎時間評価し、次時の指導に生かせるようにする。登場人物の気持ちの変化がまとめられない児童に対しては、気持ち分かる複数の行動描写や会話描写を再確認したり、教材文に引いたサイドラインの意味を考えさせたりするなどの支援をする。「お話タワー」をまとめる過程の早い段階でつまづきに応じた指導をすることができる。

また、「文章を解釈し、自分の考えを表現する」活動をA教材とB教材の両方で指導を行うことで、習得したことが活用できているかをきめ細かく確認することができ、指導と評価の一体化が図れると考える。

6 学習指導計画（8時間扱い）

※A教材（教科書教材）とB教材（児童が自分で選んだ読み物）を扱う。太線内はB教材での学習。

次	時	学習活動	手だて	評価規準 (評価方法)
一	1	○単元の見通しをもつ。	○教師が作成した「お話タワー」で物語を紹介し、誰を中心に紹介しているのか考えさせる。	

		登場人物の気持ちの変化を読み、「お話タワー」で表現しよう。		
		<p>○範読を聞き、物語の設定を確認する。</p> <p>○心に残ったところを見つけて話し合う。</p>	<p>○物語の設定（時、場所、登場人物、年齢、家族など）を捉えながら読むように指示する。</p> <p>○心に残ったところを見付け、全文を一枚に示したワークシートにサイドラインを引かせる。</p> <p>○誰がどこの叙述に着目したのかを視覚的に捉えさせるために、全文の掲示に色分け（会話、行動、情景描写など）した付箋を貼らせる。</p>	<p>[関] こんぎつねを通読して学習の見通しをもち、心に残ったところを見付け、理由を書いている。（観察・発言・記述内容）</p>
	2	<p>○「お話タワー」にごんの人物像をまとめる。</p> <p>○B教材のリストから1冊選んだ本の、登場人物の人物像をまとめる。</p>	<p>○付箋が貼られている叙述を確認して、ごんの人物像について考えさせる。</p> <p>○ごんの人物像をまとめる際に着目した叙述（行動・会話等）を例にして、B教材でも見付けさせる。</p>	<p>[読ウ] 登場人物の人物像について、叙述を基にまとめている。（発言・記述内容）</p>
二	3	<p>○ごんの気持ちの変化を考えて話し合う。</p> <p>○「お話タワー」に「変化する前の気持ち」「変化したきっかけ（どうして変わったのか）」「変化した後の気持ち（どう変わったか）」をまとめる。</p>	<p>○付箋が貼られている叙述を確認して、登場人物の気持ちの変化を考えさせる。</p> <p>○書き進められない児童には、書き出しのヒントを板書したり、教師が作成した「お話タワー」を参考にさせたりする。</p>	<p>[読ウ] ごんの気持ちの変化を読み、「お話タワー」にまとめている。（発言・記述内容）</p>
	4	<p>○「お話タワー」に、「変化する前の気持ち」「変化したきっかけ」「変化した後の気持ち」をまとめる。</p>	<p>○同じ本を選んでいる児童同士でお互いに「お話タワー」を見合ったり、助言したりさせる。</p>	<p>[読ウ] 登場人物の気持ちの変化に触れながら、自分の考えをまとめている。（記述内容）</p>
	5	<p>○物語全体の兵十の気持ちの変化を読み取り、話し合う。</p> <p>○ごんに対する兵十の気持ちをまとめる。</p>	<p>○場面の移り変わりや兵十の行動や言葉に即して読ませ、兵十のごんに対する心情の変化が分かる叙述にサイドラインを引かせる。</p>	<p>[読ウ] 兵十の気持ちの変化を読み、ごんに対する兵十の気持ちをまとめている。（発言・記述内容）</p>

	<p>6 ○物語全体を通したごんの気持ちの変化から、最後の思いを読み取り、話し合う。</p> <p>○ごんに対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>○「お話タワー」を振り返らせ、ノートにごんの最後の思いを書かせてから、交流させる場を設定する。</p> <p>○「お話タワー」にまとめてきたことや交流したことを生かし、ごんの気持ちの変化に触れながら、ごんに対する自分の考えをまとめさせる。</p> <p>○考えがまとまらない児童には、文型を提示し、自分の考えをまとめる時の参考にさせる。</p>	<p>[読オ]交流を通して、ごんに対する自分の思いや考えをまとめている。(発言・記述内容)</p>
	<p>7 ○「お話タワー」に、気持ちが変わった登場人物に対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>○A教材で学習したことを生かして、登場人物の気持ちの変化に触れながら、登場人物に対する自分の考えをまとめさせる。</p>	<p>[読ウ]登場人物の気持ちの変化に触れながら、自分の考えをまとめている。(記述内容)</p>
三	<p>8 ○「お話タワー」を紹介し合う。</p>	<p>○同じ本を読んだ友達と、お互いのお話タワーを見合せて、作品に対する解釈を話し合わせる。</p> <p>○自分の思いや考えとの相違点に注意して聞くように促す。</p> <p>○違う本を読んだ友達と、お互いのお話タワーを見合せて、作品に対する解釈を話し合わせる。</p>	<p>[読オ]登場人物の気持ちの変化や登場人物に対する自分の思いや考えを交流し、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いている。(発言・記述内容)</p>

【B教材「お話タワー」の例（一部抜粋）】

<p>中心人物に対して、自分の考えを書く。</p>	<p>「中心人物の気持ちの変化に対する自分の考え④」</p> <p>おかしらは、はじめ四人の盗人の弟子をとがらせた盗人らしい悪い汚い心の持ち主でした。しかし、わらじをはいた子どもがおかしらに仔牛をあずけてくれたことがきっかけで美しい心になりました。おかしらは今まで周りの人が自分をきざらっていたり、信用してくれなかったりして、信用されていくようになって、初めて信用されたことで変わったのだと思います。仔牛をあずけた子どもが見つからなかった時、盗人が行くはずのない村役人の所へ行ったのは、今までわすれていた美しい心もどたからだとおもいます。美しい心にもどったおかしらは、村役人に自分が盗人であることを白状して弟子達が許してもらえようにならなくて、本当に思いやりのあるよい人だと思いました。</p>	<p>「中心人物のはじめの気持ち①」、「きっかけ②」、「終わりの気持ち③」を基にして、自分の考えをまとめる。</p>
---------------------------	---	--

高学年分科会（第6学年）の検証授業

- 1 単元名 わたしたちの生き方ブック—道標^{みちしるべ}—を作ろう
教材名「海の命」立松 和平（第6学年）

2 単元の目標

- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述に着目しながら読むことができる。
- ◎本や文章を読んで、生き方について考えたことを発表し合い、自分の考えを深めることができる。

3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・叙述を基に、作品に描かれている登場人物のつながりや心情、生き方に関心をもって読もうとしている。	・人物同士の関わりや中心人物の生き方や考え方について捉えながら読んでいる。(エ) ・人物の生き方について考えを交流し、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ)	・優れた叙述に着目し、表現の工夫に気付いている。 〔イ (ケ)〕 ・物語の構成を理解している。 〔イ (キ)〕

4 教材の特性

「海の命」は、父を失った太一が与吉じいさとの関わりや、クエに対する葛藤を通して、父の死を乗り越え、漁師、そして人間として成長していく姿が描かれている物語であり、登場人物の相互関係、心情や場面についての描写を捉えるのに適した教材である。このような教材の特性を踏まえ、人物同士の関わりについて捉えたり、場面の展開に沿って読み進めたりしていく中で、太一の生き方や考え方の変化、成長をつかむことができるようにする。また、題名や作品の中にちりばめられている表現の工夫に着目させることで、作品のテーマについて深く考え、「人物の生き方」に触れることができるようにしていく。

第三次では、「海の命」同様に児童と同世代の子供が主人公となり成長していく様子が描かれた作品を取り上げ、教材文以外に自分で選んだ本を読む活動を行う。第二次で学んだことを生かし、登場人物の心情を捉えることで自分の生き方について考えられるようにする。

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 課題解決的な活動の工夫

ア 課題解決的な活動の設定

課題解決的な活動として「わたしたちの生き方ブック—道標^{みちしるべ}—を作ろう」を位置付けた。「生き方ブック『道標』」とは、物語から読み取った登場人物の生き方について、自分の考えを書き表した文章をクラス全員分まとめた文集である。この活動を通して、文章の内容や構造を理解したり、書き手の意図を推論したりするなど、文章を解釈しながら読み進め

ることができる。そして、登場人物の「生き方」について考えたことを文章で表現し、その考えを他者と交流することで自分の考えを広げたり深めたりすることができると考えた。

イ 指導過程の工夫

第一次に、読書から学んだことや役立った経験を発表し合い、物語を読むことにどのような価値があるのかを考える時間を設定する。何のために何を学ぶのかを、単元のはじめに明確にすることで、児童が目的や意図をもって物語を読み解いていくことにつながると考える。

第二次では、教材文（A教材）と児童が自分で選んだ物語（B教材）について組み合わせて指導を行う。それぞれの物語において、あらすじ、人物相関図、中心人物の変容に大きな影響を与える人物、中心人物の変容の様子や理由、それらに基づく自分の考えをワークシートにまとめていく。その後、ワークシートに書いたことを友達と交流させることで、登場人物の生き方についての自分の考えを広げたり深めたりしていく。

第三次では、A教材とB教材の登場人物が大切にしている生き方を基に、自分の生き方に対する考えを文章に表現して「生き方ブック『道標』」を作成する。最後に交流の場を設定して、自分が選んだ物語以外の登場人物の生き方やそれを読んだ友達の考えも知ることで、自分の生き方についての考えを広げたり深めたりすることができると考えた。

(2) 文章を解釈し、自分の考えを表現する指導の工夫

ア 文章を解釈する学習活動の工夫

『小学校学習指導要領解説国語編』では、文章の解釈について、「文章の内容や構造を理解したり、その文章の特徴を把握したり、書き手の意図を推論したりしながら、読み手は自分の目的や意図に応じて考えをまとめたり深めたりしていくことである。」と記述されている。高学年の文学的な文章の解釈に関する指導事項は、「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめること」である。これらを踏まえて以下の手だてを考えた。

・ ワークシートの工夫

物語の大筋を項目ごとにワークシートにまとめる。ワークシートには、「あらすじ」「中心人物」「対人物（中心人物の変容に大きな影響を与える人物）」「変容の理由（中心人物の心情が変化するきっかけとなった出来事）」等の項目を設けた。

・ 付箋の活用

中心人物の「はじめ」と「おわり」の姿、また心情が変化した「変容の理由」を捉えるために、これらが描かれている叙述に付箋を貼る。また、教材文については教室に全文を掲示し、中心人物の「はじめ」「おわり」「変容の理由」について共通理解するための手だてとする。

・ ワークシートの内容を確かめるための交流

友達と交流することで、ワークシートに書いた内容の加筆、修正を行えるようにする。友達の意見や内容を確かめることで、文章の解釈を深めるための手だてとする。

イ 自分の考えを表現する学習活動の工夫

「生き方」について自分の考えを書き表すためには、第二次の学習で行うワークシートを用いた解釈と、第三次の考えを書き表す文章とを結び付けることが重要である。そこで、【図1】のように、二次で記入したワークシート(上段)の内容を基に、三次の「生き方ブック」(下段)を書くことができるようにする。

・ 人物相関図の工夫

第二次で行った解釈を表現につなげるために、人物相関図の中に自分を入れることとした。人物相関図を見渡して自分が影響を受けた人物を選び、線で結んで対象を明確にすることが、自分の考えを整理し、考えを表す文章につながると考えた。【図2】

・ 解釈と表現の結び付きを示すモデルの提示

ワークシートの項目(解釈してきたこと)を「生き方ブック」にどのように生かすのか、モデルを示すことで児童が見通しをもてるようにする。

・ 表現語彙の提示

自分の考えを豊かに表現させるための工夫として「表現語彙」を提示する。「誠実」「信念」「決断」等、「成長や生き方にかかわる表現」を示すことで自分の考えが書きやすくなると考えた。

・ 交流の場の設定

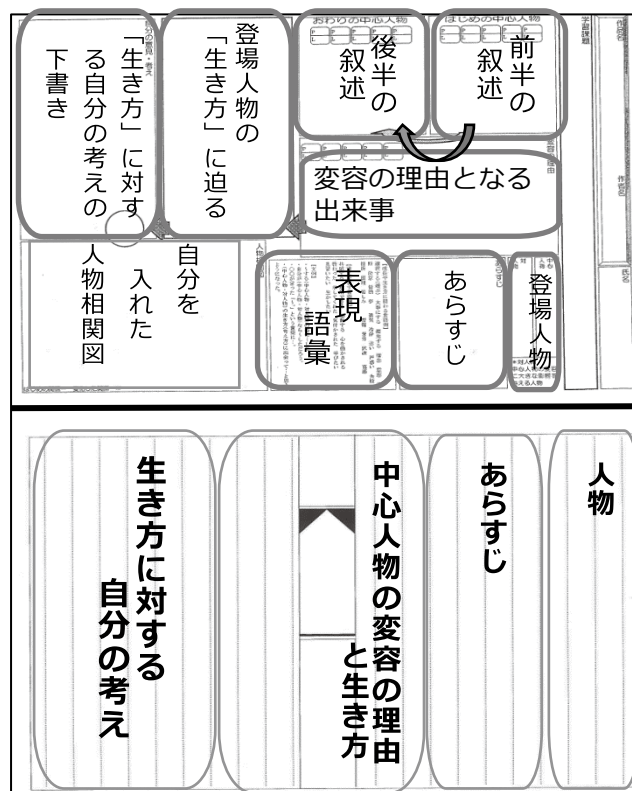
他者と自分の考えを表した文章を読み合い、交流することで、友達の見方や考え方から自分の考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。

(3) 評価の工夫

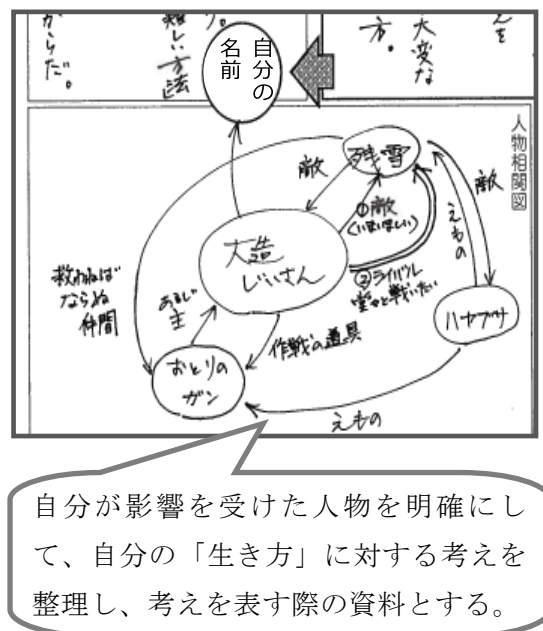
ア 具体的な評価規準の設定

本単元で身に付けさせたい力を明確にし、一時間ごとの具体的な評価規準を設定する。評価の際には発表、学習中の様子、ワークシートに書かれた内容など多面的な視点から児童の変容を教師が把握できるようにする。

【図1】ワークシートの活用の例



【図2】人物相関図の例



イ 指導と評価の一体化

毎時間の活動や学習のめあてを明確にした学習計画表を教室に掲示し、児童がめあてを十分に理解し、見通しをもって学習できるようにする。また、座席表型評価簿を活用し、毎時間の学習の様子を教師が把握し、一時間ごとの記録から次時の指導の重点を明確にし、指導に生かすようにする。

6 学習指導計画（8時間扱い）

※A教材（教科書教材）とB教材（児童が自分で選んだ読み物）を扱う。太線内はB教材での学習。

次	時	学習活動	手だて	評価規準(評価方法)
一	1	○読書から学んだことや役立った経験などを発表し合い、物語を読むことにどのような価値があるのかを考える。	○黒板上で意見を分類整理する。特に物語を読む価値が明確になるようにする。	
		物語から登場人物の生き方を読み取り、自分の考えとあわせて紹介しよう ～わたしたちの生き方ブック—道標—を作ろう～ <small>みちしるべ</small>		
		○「生き方ブック『道標』」をつくることを知り、友達に本と登場人物の生き方を紹介するために必要な要素を考え、学習計画を立てる(あらすじ・登場人物・考え方の変容など)。 ○登場人物の考え方の変容を意識して「海の命」を読む。	○要素を考えた上で児童の意見を受け、学習計画を立てる。 ○物語の多くは中心人物の考え方が大きく変容する部分があることを確認する。	[関]物語を読む価値や「生き方ブック」に興味をもち、進んで学習計画を立てようとしている。(観察)
* B教材にリストアップした本の中から本を選び、読書を進める。 * 中心人物の「はじめ」「終わり」の姿、変容する場面に付箋を貼る。 (教師側で付箋の確認)				
二	2	○あらすじに入れる必要のある要素を確認する。 ○中心人物のはじめと終わりの様子について確認する。 ○「海の命」のあらすじを書く。	○別の作品で書かれたあらすじのモデルを示す。 ○中心人物のはじめと終わりの姿に注目させる。	
		○B教材についてグループで中心人物のはじめと終わりの様子を確認する。 ○B教材の本について、あらすじをワークシートに書く。	○同じB教材を選択したグループを設定し、確認できるようにする。 ○「海の命」で作成したあらすじを参考にさせる。	[読エ]あらすじを書き、中心人物のはじめ、終わりの姿を捉えている。 (ワークシート) [言イ(キ)]物語の構成を理解している。 (ワークシート)

	3	<p>○「海の命」の登場人物を確認する。</p> <p>○「海の命」について太一と太一を取り巻く人々の相関図を書く。</p>	<p>○他作品で作成した相関図のモデルを示すと共に、相互関係を的確に捉えられた児童の作品を部分的に紹介する。</p>	<p>[読エ] 叙述を基に登場人物の相互関係を捉え、相関図を書いている。(ワークシート)</p>
	4	<p>○B教材の本について、登場人物を確認する。</p> <p>○B教材の本について、中心人物を取り巻く人々の相関図を書く。</p>	<p>○同じB教材を選んだ児童でグループを作り、確認する。</p> <p>○「海の命」で作成したあらすじと、他作品のモデルを参考にさせる。</p>	<p>[読エ] 叙述を基に人物の相互関係を捉え、相関図を書いている。(ワークシート)</p>
	5	<p>○太一の考え方が変容した理由について、叙述を基に自分の考えをもつ。</p>	<p>○前時までに作成した相関図やあらすじ、付箋を参考にしよう指示する。</p>	<p>[読エ] 登場人物の相互関係や心情についての描写から、太一の変容の理由を書いている。(ワークシート)</p> <p>[言イ(ケ)] 優れた叙述に着目し、表現の工夫に気付いている。(ワークシート)</p>
	6	<p>○太一の生き方について話し合い、自分の考えを書く。</p>	<p>○相関図の太一から自分に向かって矢印を引き、太一の生き方から学んだことを書かせる。</p> <p>○必要に応じて表現語彙を活用するように指導する。</p>	<p>[読エ] 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、太一の生き方について自分の考えをまとめている。(ワークシート)</p>
三	7	<p>○B教材について、人物の変容の理由や生き方をまとめる。</p>	<p>○同じB教材を選んだ児童のグループで、付箋の箇所を交流させる。</p> <p>○交流したことを基に変容の理由をまとめさせる。</p>	<p>[読エ] 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、登場人物の生き方をまとめている。(ワークシート)</p>
	8	<p>○A B 両教材の中で自分が心惹かれた登場人物の生き方について自分の考えをまとめる。</p>	<p>○解釈と表現の結びつきを示すモデルを参考にして、考えをまとめられるようにする。</p>	<p>[読エ] 前時までに読み取ったことを基に、登場人物の生き方について自分の考えをまとめている。 (「生き方ブック」)</p>
	9	<p>○生き方について書いた文章を読み合い、交流する。</p>	<p>○グループで交流し、友達の見方や考え方から考えが深まるようにする。</p>	<p>[読オ] 登場人物の生き方について他者の考えを知り、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (「生き方ブック」)</p>

VI 研究の成果と課題

【全体の成果と課題】

〔成 果〕

- 文学的な文章を読むことの指導において、課題解決的な活動を取り入れたことで、読む目的が明確になり、児童の主体的な学びや表現につなげることができた。
- 児童の発達の段階に応じて言語活動を工夫したり、全文の掲示を使って複数の叙述を根拠に自分の考えをもつことを意識させたりしたことで、文章を的確に解釈し、課題に対する自分の考えを明確にして表現することができた。
- 他者との交流を意図的に設定したことで、児童は自分の考えと他者の考えを比べたり確かめたりし、自分の表現に生かすことができた。

〔課 題〕

- 解釈したことを基に自分の考えを表現しやすくするために、発達の段階に応じたワークシートを開発した。しかし、限られた時間の中でA教材とB教材の両方についてワークシートに取り組みさせることが困難であった。ワークシートの内容について、指導の重点化を図るとともに、B教材を更に精選する必要がある。

【各分科会の成果】

〔低学年〕

- 文章を解釈するために、「挿絵の活用」、「自分の考えの根拠となる叙述にサイドラインを引くこと」、「登場人物の気持ちを吹き出しに書くこと」、「毎時間の音読」などをさせることで、児童が文章と自分の経験とを結び付けて読むことができた。
- 解釈したことを基に表現するために、課題解決的な活動を「心にのこったお話をしようかしよう」とした。また、教科書教材で学習したことを自分が選んだ本を読むときに生かせるよう、「児童の思考に沿ったタイミングでモデルを提示すること」、「児童が表現のよさを学び合う交流の場の設定」、「自分の考えを表現するための文型の提示」などの手だてを行うことで、児童が主体的に自分の思いや考えを表現することができた。

〔中学年〕

- 文章を解釈するために、物語を場面ごとに順を追って読んで考える学習過程ではなく、中心人物の心情の変化に焦点を当て、物語全体を通して複数の叙述を根拠に読む学習過程とした。児童は、場面の移り変わりを捉えながら登場人物の行動描写、会話（心内語）描写などの叙述に着目して、登場人物の心情の変化を的確に読み取ることができた。
- 解釈したことを表現するために、課題解決的な活動を「登場人物の気持ちの変化を『お話タワー』で表現しよう」とした。児童は目的意識をもって、「お話タワー」に登場人物の心情の変化とそのきっかけ、物語全体を通じた登場人物の心情の変化に対する自分の考えを表現することができた。また、「お話タワー」をまとめる過程でグループ交流を行うことで、一人一人の感じ方や考え方の違いを捉えることができ、自分の考えを整理して表現に生かすことができた。

〔高学年〕

- 解釈して読むために、ワークシートを活用して「あらすじ、中心人物、相関図、変化の理由」などを項目ごとにまとめたことで、物語の大筋を捉え、自分の考えを意見文につなげることができた。活動の見通しをもたせるために、ワークシートのモデルを提示して活動のゴールを示したことも、課題解決的な学習過程を進める上で有効であった。
- 解釈したことを表現するために、課題解決的な活動を「わたしたちの生き方ブックー道標みちしるべを作ろう」とした。A教材の学習で習得した力をB教材でも活用したことで、登場人物の生き方について読んだことを根拠として自分の考えを書くことができた。また、交流活動を行ったことで、他者の考えに触れ、生き方についての考えを広げたり深めたりすることができた。

平成 27 年度 教育研究員名簿

小学校・国語

低学年分科会

地区	学 校 名	職 名	氏 名
新宿区	落合第三小学校	主任教諭	菊池 桂子
江戸川区	西一之江小学校	主任教諭	☆小澤 珠里
府中市	本宿小学校	主任教諭	中村 かおり

中学年分科会

地区	学校名	職名	氏名
中野区	鷺宮小学校	主任教諭	村松 由紀子
大田区	赤松小学校	主任教諭	○古田島 良子
江戸川区	船堀第二小学校	主任教諭	黒川 良
青梅市	第四小学校	主任教諭	☆中川 万智子
調布市	富士見台小学校	主任教諭	田中 里香
東村山市	<small>おんた</small> 大岱小学校	主任教諭	高橋 里実

高学年分科会

地区	学校名	職名	氏名
台東区	金竜小学校	主任教諭	◎岡村 知子
江東区	越中島小学校	主任教諭	野口 夢子
品川区	浜川小学校	主任教諭	中川 清志
中野区	平和の森小学校	主任教諭	☆松本 匡広
豊島区	清和小学校	主任教諭	網野 愛美
多摩市	南鶴牧小学校	主任教諭	虻川 学

◎全体世話人 ○全体副世話人 ☆分科会世話人

[担当]東京都教育庁指導部義務教育指導課

指導主事 馬場 一平

平成27年度
教育研究員研究報告書

小学校・国語

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成27年度第197号〕

平成28年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社